

愛知廣島鳥取島根大阪滋賀



旅 飯
鳥取 湖山屋
松江 皆美館
福山 栗定
尾道 濱吉
廣島 吉川
宮島 松岡
津山 曙
米子 岩佐

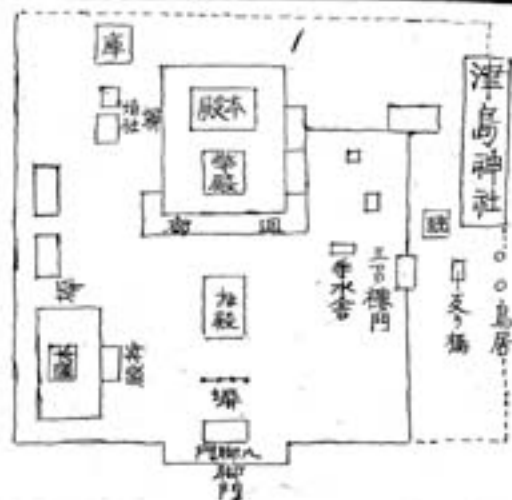
廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉

七相 日經 東京堂

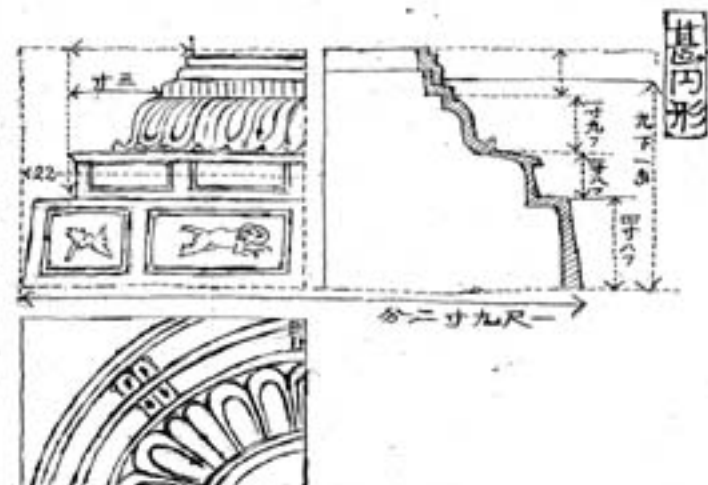
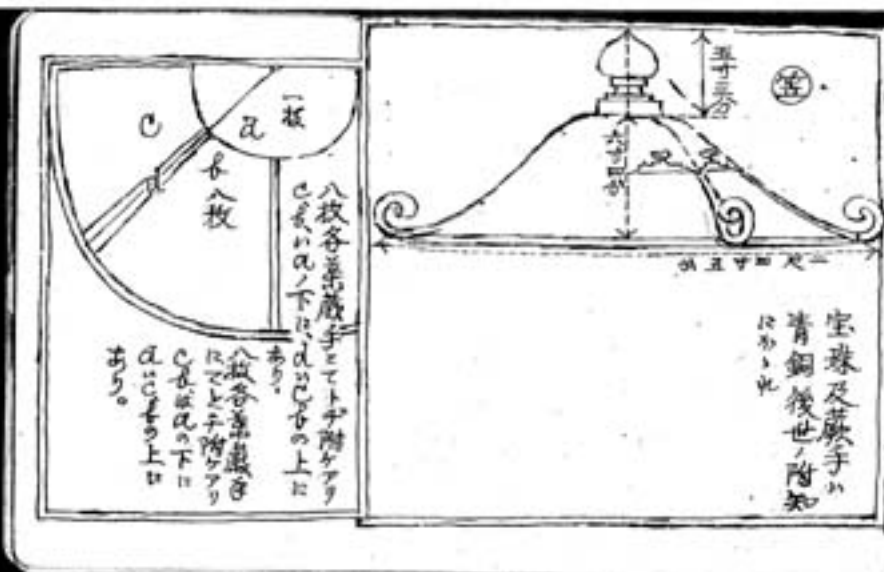
七月十日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十一日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十二日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十三日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十四日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十五日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十六日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十七日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十八日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月十九日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十一日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十二日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十三日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十四日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十五日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十六日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十七日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十八日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月二十九日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉
八月三十日 廣島市上流川 本堂恒次郎
同 水主町 後藤武彦
名古屋白壁町三丁目十七番地
草刈義哉

大坂	二十日	長野森、金剛寺、留野津、大社、經子、大坂、長
京都	廿一日	大坂、愛知、大津、長、大坂、長
京都	廿二日	京都、大津、長
京都	廿三日	京都、大津、長
京都	廿四日	京都、大津、長
京都	廿五日	京都、大津、長
京都	廿六日	京都、大津、長
京都	廿七日	京都、大津、長
京都	廿八日	京都、大津、長
京都	廿九日	京都、大津、長
京都	三十日	京都、大津、長

大坂	二十日	長野榮令司子、富田林運水、分給
京都	廿一日	大坂榮、住吉、大島社行、大坂着
京都	廿二日	京都、津、大津、泊
大津	廿三日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
滋賀	廿四日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
滋賀	廿五日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
滋賀	廿六日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
三重	廿七日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
三重	廿八日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
三重	廿九日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
三重	三十日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊
三重	三十一日	大津、泊、西明寺、門、路、州、泊



迴廊中央の省橋邊に高くは軒唐破風
 うちを繋ぐ切妻切妻
 紫朱塗の檼皮葺
 非面筋大切妻の
 津島祇園と稱す春神
 常夜燈をも、迴廊と掛殿之間にあつて○明治年
 六月十二日と銘あり 欽定八角



○甚目寺眞言樓門

三間、戸ナシ



礎天然石ノマ、

柱

下斗物

私揚アマ祖三手先巻斗、替はタコヒラアリ、隅角斗は角生セリ。
ナシノ巻斗、斜、ナシリ。
巻斗、^金單筒、義キアリ、陰招、招満一係アリ

高欄 ビクキ組高欄、形戎影シ

上斗物 唐紙並通三手島吉あり、^金第の華

八和探的、垂木刻と斗との割の嚴密ナリ

天井 格天井、組入格ノ割と下斗ト関係ナシ

屋根 ヲケラ葺入母屋、妻建テ野基モシ

前方に突出スルヲ新式ノ如シ

妻飾共舞肘木、虹梁大親束

懸更

古重前後唐戸その他習用テ連子中と思はレ

ブロヤシヨシ

上重裏根は低ク全体トレスデーゾノ

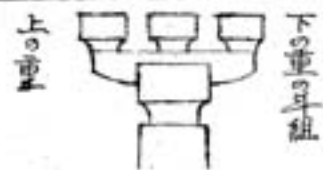
観アズ

下重は汗間敷、東東、中、桐、^金三ツ、^金上、^金重斗、^金下、^金重と全別

一休は上重の木割下、連環セす小あり



上の重丸桐の下に丸面あり軒の出、丸桐六皮、地六皮、飛人五皮



下の重の早組



上下の中角
通肘木に通リ

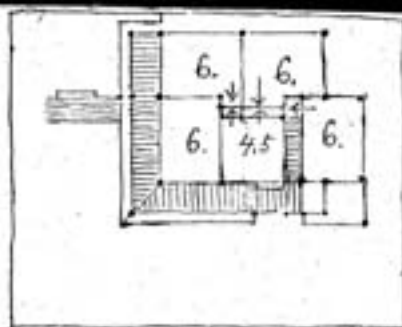
コノ手法何時頃ヨリ始
マルヤ不詳トモ鎌倉
以前トハナキナリ

○真珠庵

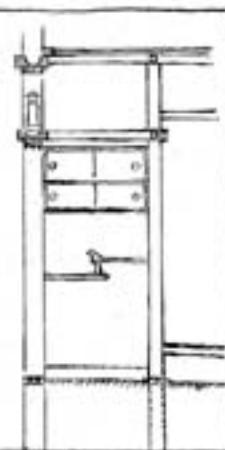
屋根入母屋ムクリ破尻ミテ勾配を後と西
線尤も美あり懸奥へ参卷六条あり妻
木建格子貫ミ細あり
柱、長押凡テ大面ニテ戸堅棧鴨居湛打の
軒スル垂木居空テク木舞廣木平
天井板、屋根持貫、共背
柱四寸角、上段次の百欄を切の節

天井板、屋根持貫、背
柱四寸角、上段次の百欄を切の節





棚と厚き枱ヲ入レテ例少ナシ
極メテ妙ナリ
天井ハ太キ猿頬コレモ可ナリ
床と正シク相對ニテ書院ヲ設ク



麻呂全樂(小引)ノ一ノ同ヤトハ
 次ニ夏秋二年一画ノ愛河池院佛
 (東山ノ所居ニテ災代ナリカ通風ハ鐘名
 風アリ)ノ繪卷ニハ、アラシ一変シテ
 圓座ノ今日ノ如ク曲折シ、後夜ヲ出シ
 新甚ノ音、左左門窓就、あるるリヲ
 アリ、後夜更ニテ丹塗ナリ、
 左ハヤアラシハ仁泥ヨリ反転ニ至ル間
 ニ変更モラシタルモノ、如シコノ同ニハ
 嚴未ク五ノ境モ今世世間ニナリ、
 以テ最良全觀(毛針ノ内)ノ同ニヨシハ
 コノ因ハ甚タ托騰ナレバ亦タ現今ノアリ
 ト全一モノナリシヲ推知スヘク、五重塔
 モ記入シヤリ、
 津記所記ノ屏風ニ津版ノ同ヤリ、甚タ
 杜撰ナルモノナリ、凡テ三ノ年ニ迄キモノナリ
 ゾシハ全タ現今モト符合セリ、
 要スルニ、アラシハ今世世間ニシテ、
 ナリ

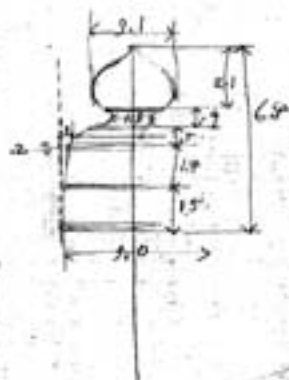
維新ノ際津版ハ難ノ惡説ニヨリ、丹塗
 ヲ剥落シ、白重ヲ洗滌スル事非常
 ノ勞力ヲ要シ、田親ヲ改メテ、又本
 後ノ局板ノ瓦棟ナリシヲ木ノ箱梯トナシ
 ケ木勝田木ヲ冠セシメタリ、ソノ他所ハ
 小妻更ニカヘタリ、
 少石現ハ、其炊雅ナルヲ非常ナリ、
 ハニ重石々ハ三重ニカヘタリ、最古ノ
 島飾ノ如キハ、全ク最古ノ局板ノ
 ニ厚ム、カキキ高麗ヲ呈セリ、局板
 ノ形状ニ正シ、今変更アルヲ、
 ナリ、之ヲ田形ヲ推考ノスルヲ亦タ甘々
 難ナリ、カキシ、
 屏風全圖

- 一 手氏御座、懸卷箱
- 一 狛犬
- 一 赤銅像仙像
- 一 佛具一組
- 一 木刀
- 一 鏡

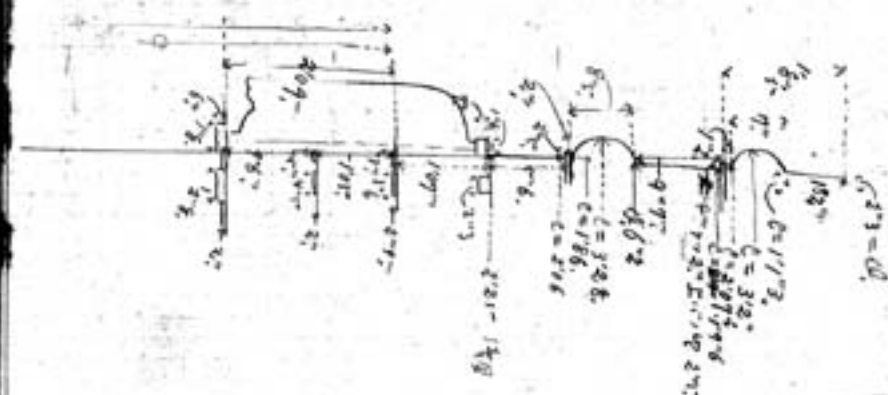
無木打板ハ中央メケハミタノ斗ニ合ミ
 各メケ同リ小シ

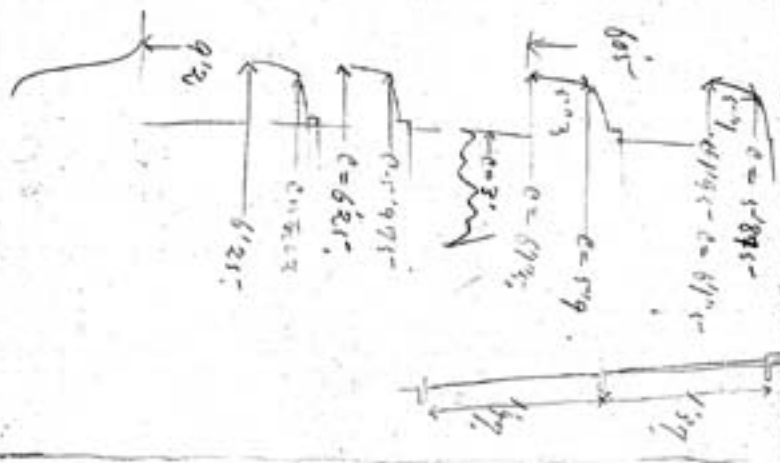
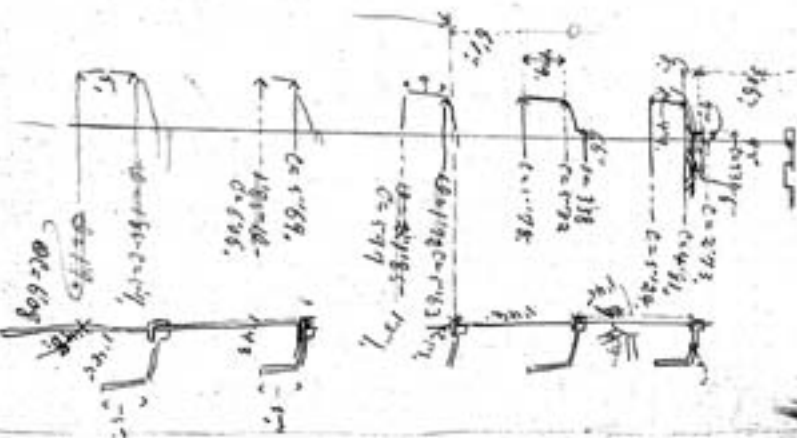
右ノ如クモリ、其他ノ部ハ斗ノ同
 ナキモ、應斗ノ上メケハ同リ
 斗ノ同ハ、斗ノ上メケハ同リ
 面メケハ、斗ノ上メケハ同リ
 密ノ用傳ナリ

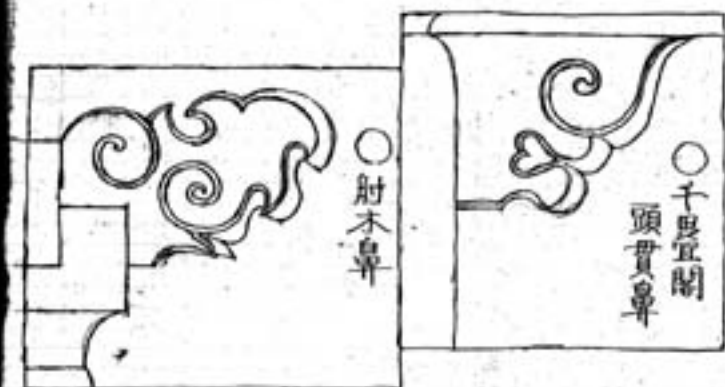
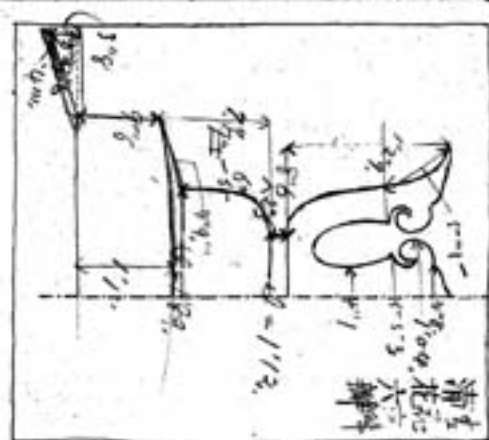
市棚板ニ付

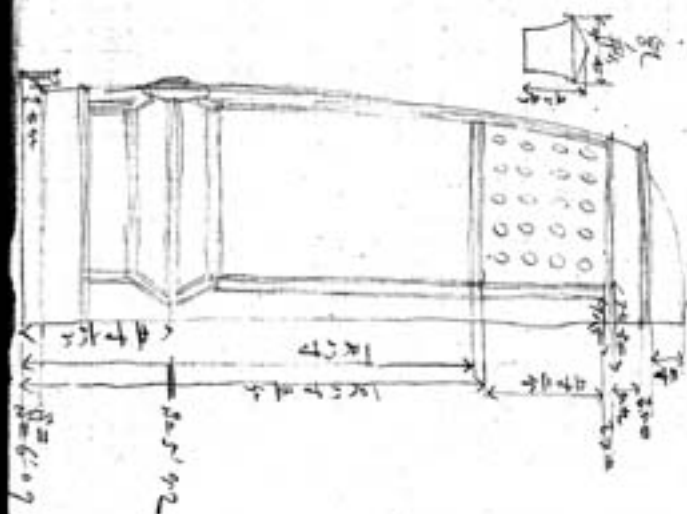


斗ノ上メケハ同リ

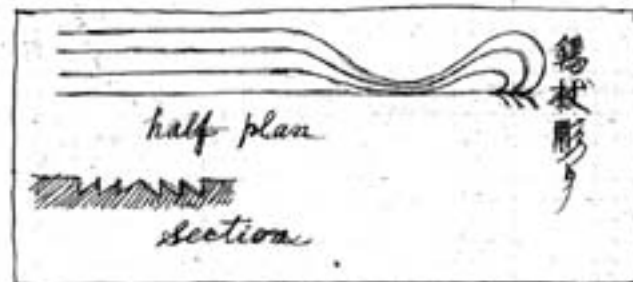








千景園ノ鏡
 石取五年ノ銘アリ人故也
 当時ノ鏡ノ好形式ニ依テ考ナリ





口蓋(通) 二九寸五分
厚二寸

康野燈籠寸法

嚴島圓亭所載

宝珠 高サ一尺八寸

宝石 厚サ一尺

大鼓 八角一箇

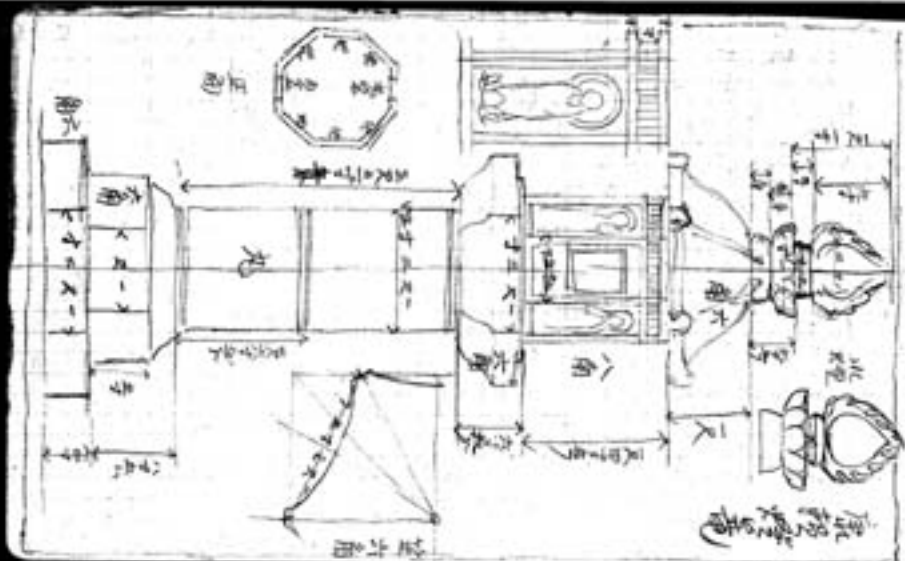
五寸五分宛キ七層 四尺四寸長 一尺四寸五分

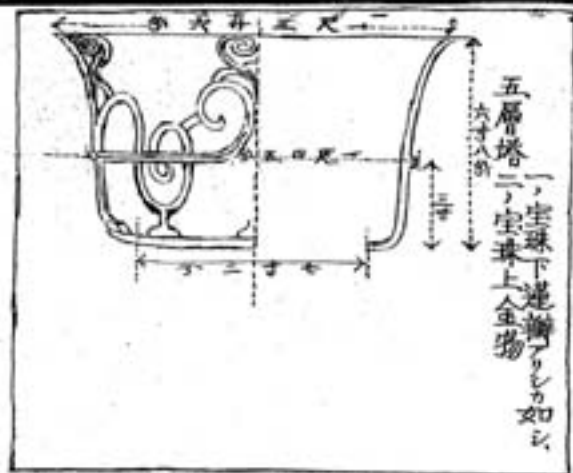
大受六角一箇 一尺三寸宛キ

四寸七分 厚サ六寸五分

軸廻リ 一尺長サ一尺五分

地台 宝珠 高サ一尺四寸 宝石 一尺五分





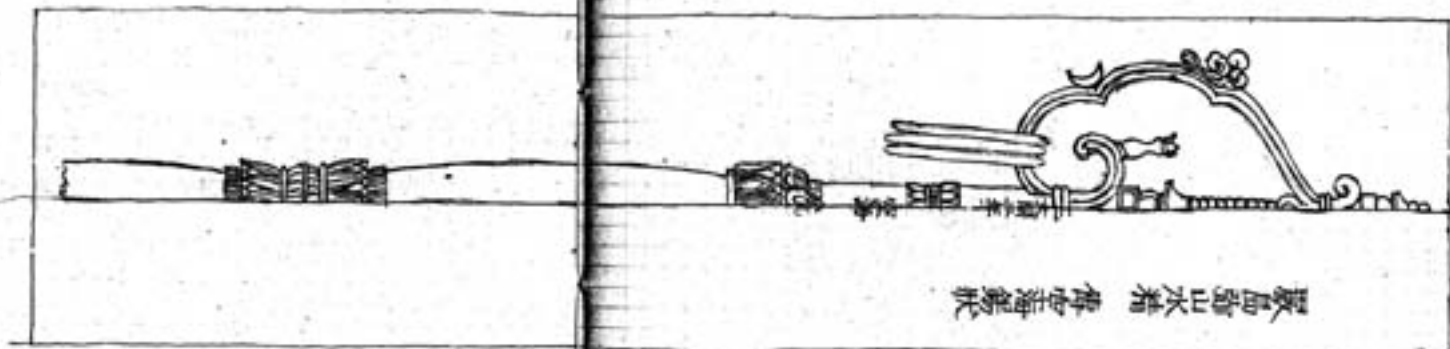
彌山の梵鐘、銘
伊都岐嶋於山ノ
水精寺
奉施入
治養元年丁酉二月日
建立聖人永意
地主 右大將平宗盛

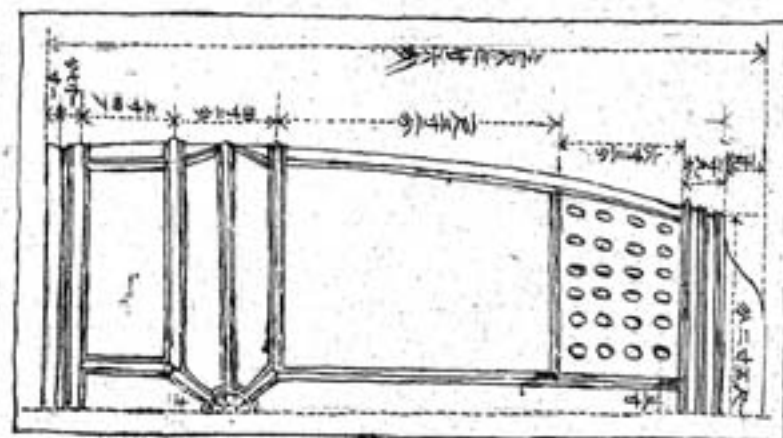


龍頭表



元曉庵小鏡
口至七寸三分五厘
厚七分三厘

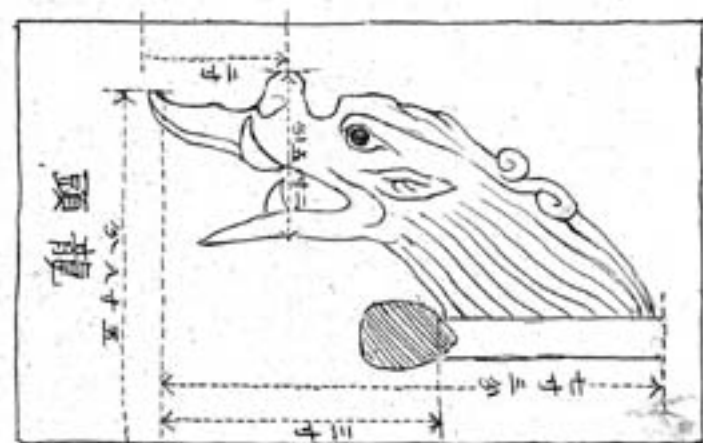




口又三又二寸五分
乳四六



饅頭形高キ点下唇ノ突出スル点足利
時氏ノモノニ似タリ蓋シ其ノ如キ「スタイル」
ノ元祖カ「アロバール」ヨリ「西本願寺」ノ廣隆寺
ノモノ似タリ最大徑掩座ノ辺ニあり。
宗盛ノ鐘ノ龍頭ノ角ハ中共ニ一本
アルノミ全形ノ形ハ足利ノモノニ似タリ



◎水精寺

毘沙門堂 三間四方舞臺がけ



中央須弥壇上の
厨子及その中の毘沙
門像ハ見ると足元共ハ
鎌倉式ナリ

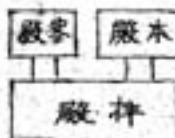
光明院所藏

恵心筆阿弥陀画像



◎地の御前 (佐伯郡地御前村)

金持殿ナリ



大徳殿島に似タレに徳川末ノ式ニ改造セラレ
タルヲ見ル即チ左ニ之ヲ徴スヘシ

斗ノ形状
一蟬股の形状
一虹梁鼻ノ形

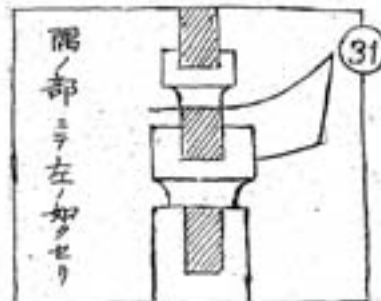


斗より甚ダ乾固ニ出来多



②





安政五年柱入替ノ模範アリ、
堅下ノサシ面等ハ古式ヲ存ス、藝股
ハ徳川初期ノモノナルヲ如シ

宝暦十年 鑄造梵鐘



乳上部

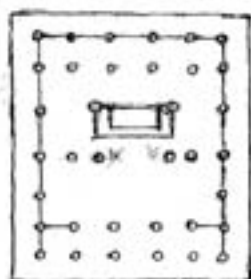


前面



廣鳴縣

牛田村不動院金堂



傳ヘテ秀吉朝鮮ヨリ移建スト云フ
絵様奇ニシテ復雜ナルヲ類ナク、ソノ性
廣大ニ支那的ノモノナリ。
コレトタタシヨシハ鎌倉内見タル舍利殿ニ
似有ス、蓋シ共ニ支那的ナルナリ
虹梁ノ兩端ニ奥ハ頭ヲ画クナドハ全ク支那
的ニテ大徳寺唐門ニテハ之ヲ發達シテ彫刻
トナリタルゾヲ觀察スベシ。



○真言 豊田郡...村

樂音寺

鐘
大師堂
六軒樓現

坊

坊

寺司
釈迦堂

坊

堂料

勤

多宝塔

堂王

羽室

口港五

坊

坊

坊

坊

坊

坊

坊

坊



勸修所

三門

神財

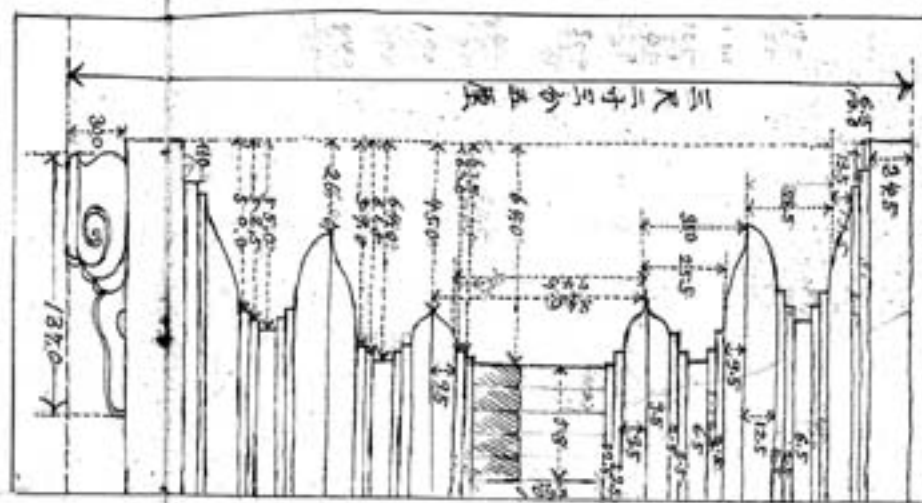
目下築山堂一字寄棟とヨロ葺向拜
五間四面あり

多宝塔の図



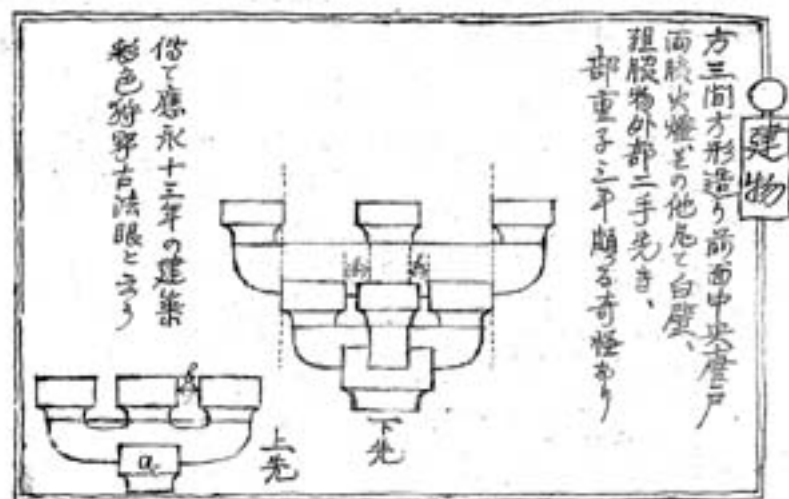
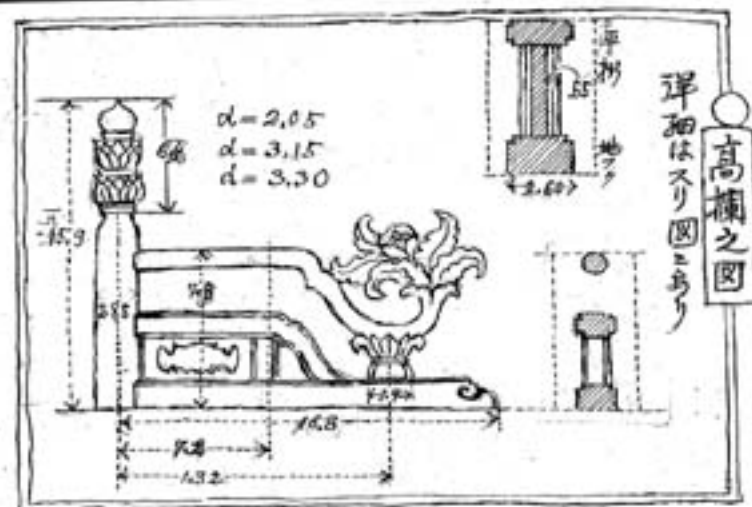
この形果して存せられざる尤も疑ふべき
中のうち現、彫り如き形、画をある実物とし
て全く普通連の形ありに実例あり。

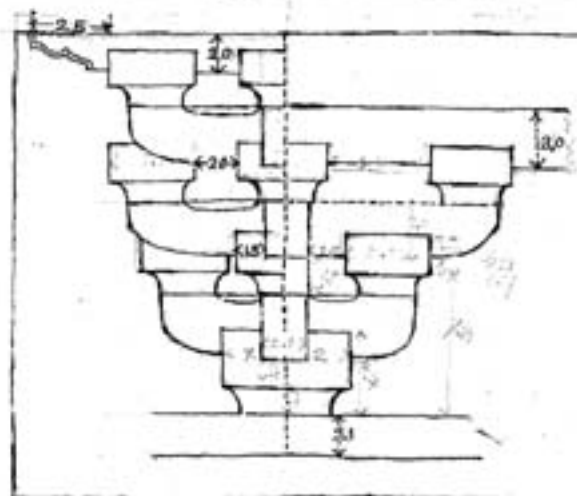
◎佛通寺地藏堂(曹田郡高良村)
須弥壇



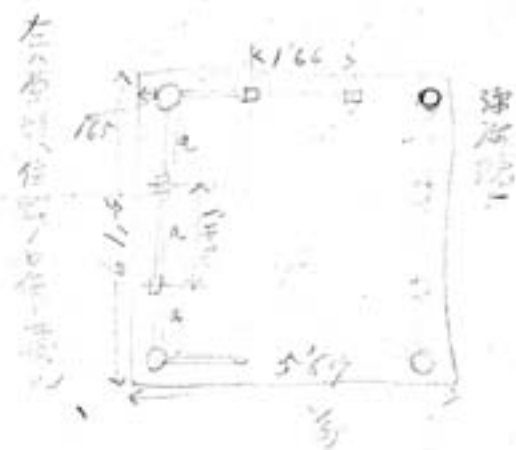
本堂は二重兩打違ふり三重の房と
饅頭形を有する奇妙な造り







開山塔



六角鈴（松島ノ鈴ト称ス）
厚サノ過当ナリ。是ノヲ振ルハ（音）激シキモノ
ニ聲イテ餘響ヲ廢スナリ。



○雷寺梵鐘

永正二年の製作



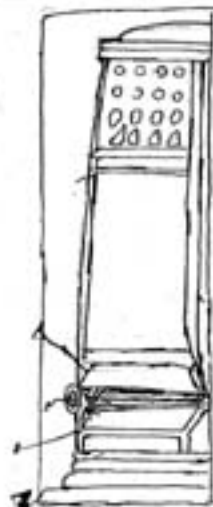
ア口ホーシヨシト非常ニ高く口冬ノ厚ク
ニ上ト行くと急に薄クナル
乳は四十五形は然ナリ、

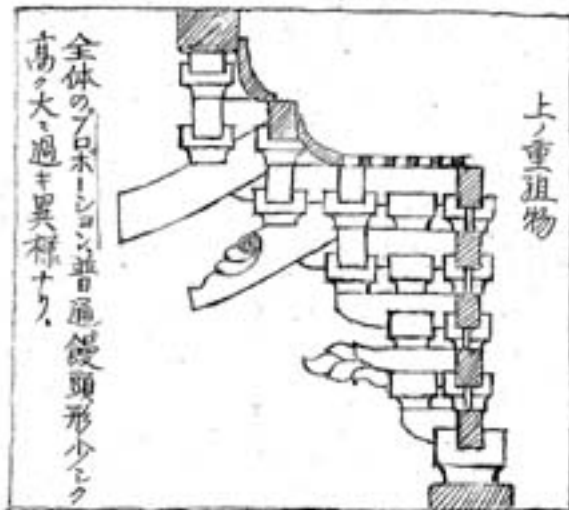
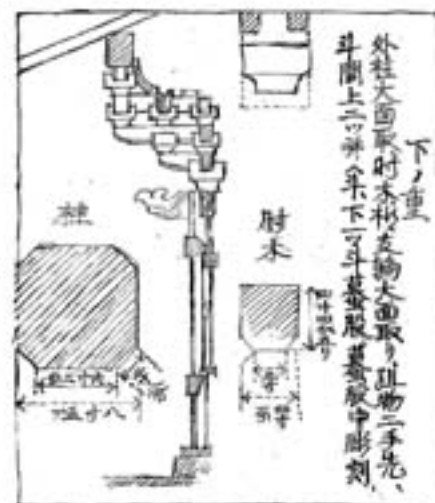
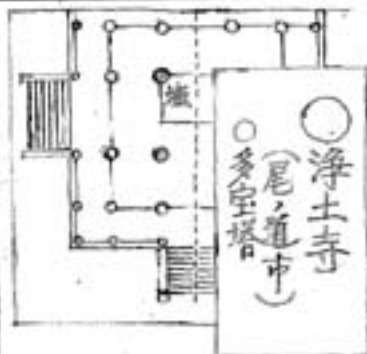
厚有厚サ

口至二尺五寸

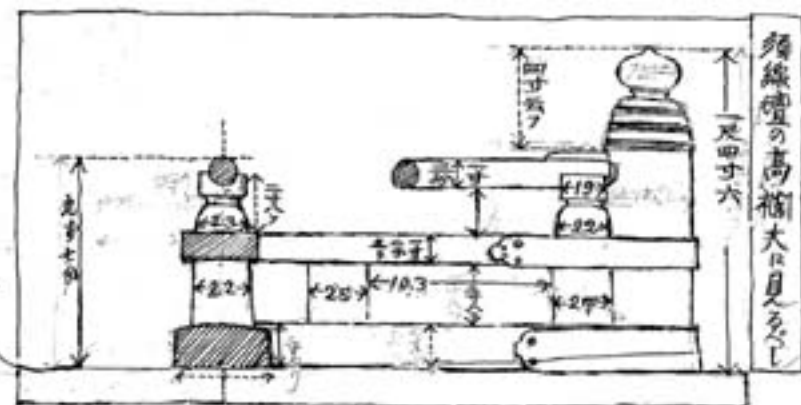
撞重ノ高さ七寸二分

龍頭下モ其ノ高さ三尺六寸五分

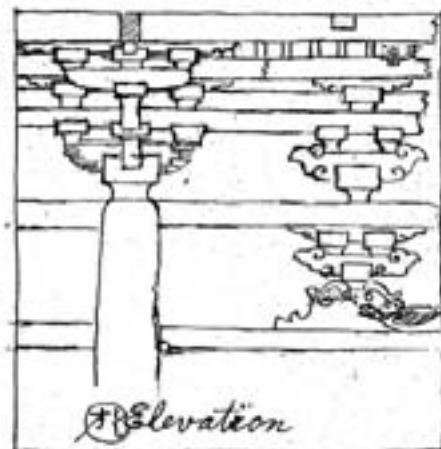




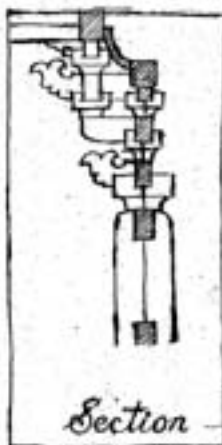
本尊子一面觀音觀々々々



須線壇の高欄大に見えし

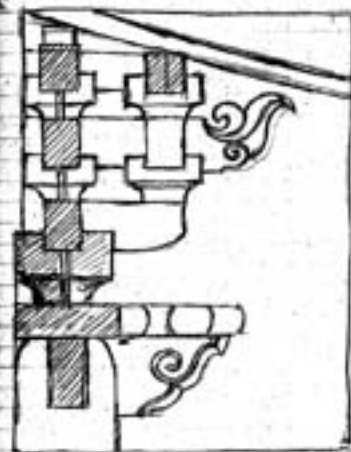


Elevation



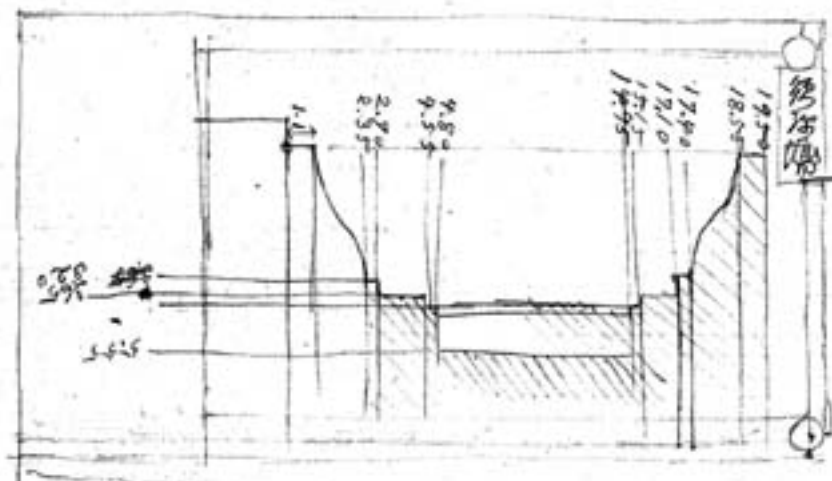
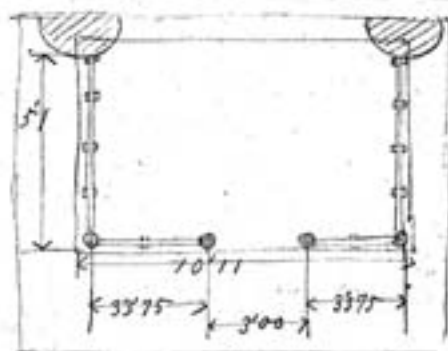
Section

内陣内面壁の手渡

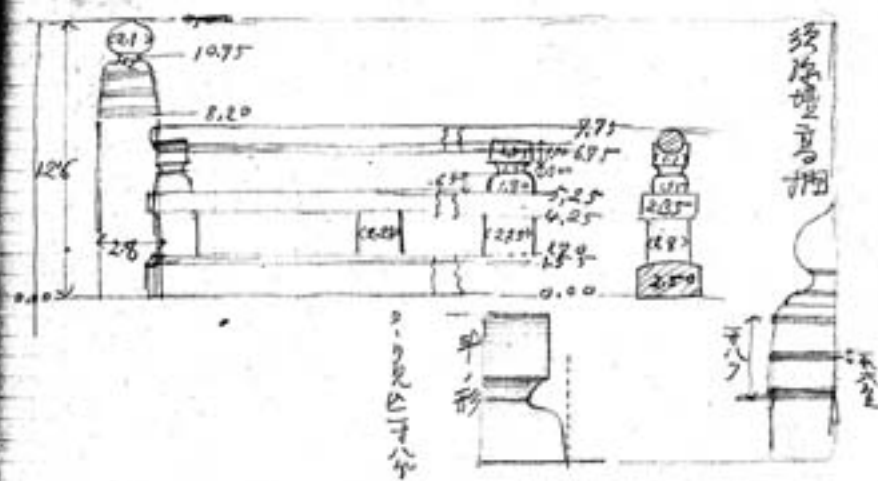


外部軒端物出廻り天井ナシ

天板大佛庵ノ元丁ハコノ附ノ取寄ナシ
但し手法ハ観心寺如シテ土手ノ下ニテ
臺ノ数似ノミナリ
要スルニ觀心寺派ノ末裔ノ末裔ノ末裔
モノ見ルトウ得コノ時代ハ尾張句流モ
(1) 多クナシ
(2) 高ノ足折儀ニテナシ
(3) ナシル 鐵巧ナシ
(4) ナシ



◎伊豫國大三島神社
伊豫國大三島神社

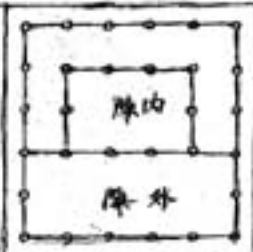




◎ 大山

阿彌陀堂(天正廿二年)

五方四角單層方形造り四方柱向敷一



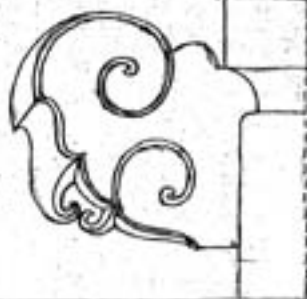
外陣前は化粧
屋根裏は後陣
神根天井
内陣神根天井

此物出三三斗柱、段段通天信へて若し廿五日
四角ありしものを相建せしと云ふ左もあふへし
梵鐘、鐘、鉢、鉢、鉢、鉢と僧や

其龍殿は足利時宗のゆかりあり明より其形
状は足利初代のものなるを知らし
乳の紋の三三九あり八珍あり
口至二尺四寸厚二寸五分あり、

この建物の大斗著しく柱より突出し
從て粗筋の形大、華本の粗大なるを知ら

其世を偉觀ありコブシの骨のしるぎ、この功の
玉力して時宗様の手法を用いたるあり、
建物の天正のゆかりあり。



向拝の透世ノ改作ナリ
要スルニ特建ノ價ナシ。

○大日堂(本堂)又地所也
地所等々所 行基云々云フ

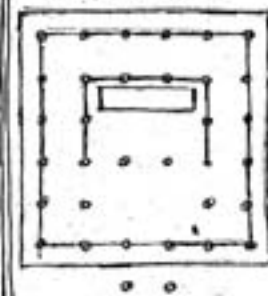
○大日堂(本堂)又地所也
地所等々所 行基云々云フ

地所等々所 行基云々云フ
土中出現菩薩銅像鳥仙所派り

珍ラシキモノナリ、高(一尺)
建儀等々價值ナシ

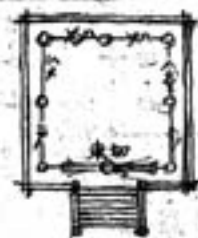
○觀音堂
三石社樹現作久建築的價值ナシ

大日堂

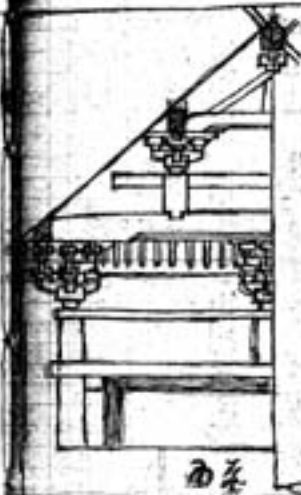


○西伯郡太高村太客尾郎
大神神社(国小)

本殿二層四方前後切妻、蓋し太社、
三ノ妻化シタルモノ、棟杵木ニテ所、
本主アリ。



後面、前面、全室

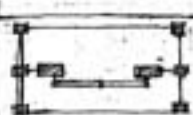


西

此の神社は、伊勢の地方にあり、奥に一古社
と云ふ所あり。

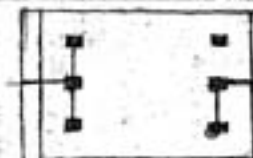
○素子所

常住山 感應寺山門(日蓮)



横門、高欄あり、上ニ梵鐘
あり、門のブシ珍ナシ、
願ハ財宝ニテ、飾ル所、
ノ趣、
カ人

○信泉寺(日蓮)



横門、一間、
上層ニ、
四脚流、
扉アリ



伯州
大山
裾野ヨリ見



伯州
大山絶頂蓋嶺寺
大神山神社
より見



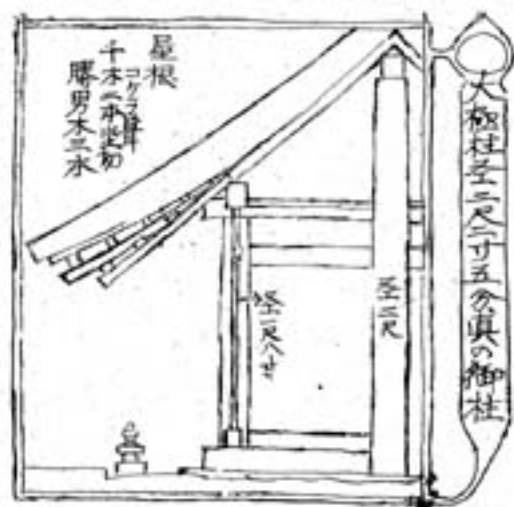
伯州大山路

伯州
大山登山道



日本画の大山





○島根縣希名古刹

笠川郡 鷺洲村 大字 別所 鷺洲寺 ⑤

能登郡 宇賀莊 大字 清光寺 ⑥

全 (全) 大字 清井雲樹寺 ⑦

八束郡 大庭村 大字 大宮寺 ⑧

美濃郡 益田町 出雲大社 神社 ⑨

美濃郡 益田町 万福寺 (時宗)

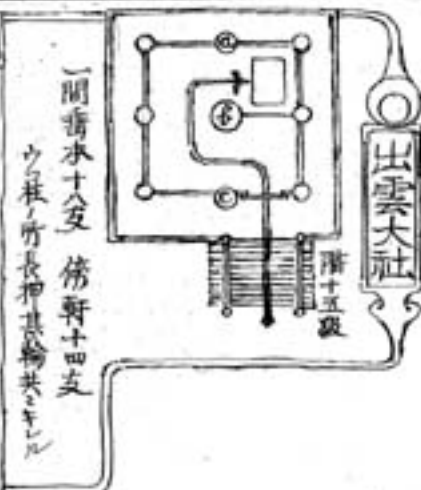
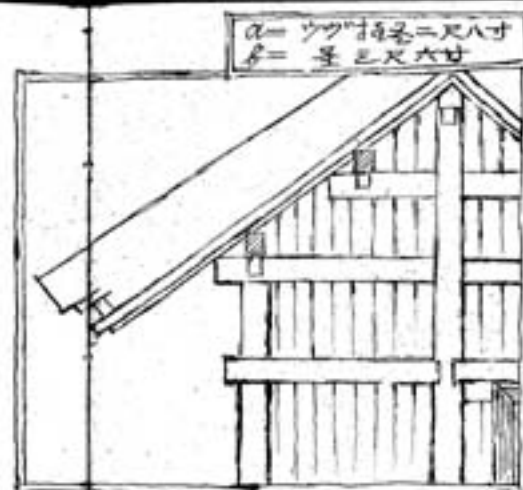
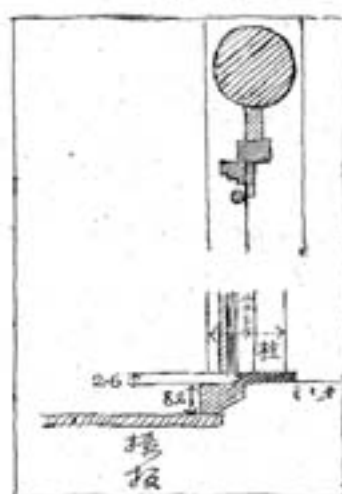
○松江中雜賀町學者を輩出する所なり

○鯛洲寺

雅古天皇ノ御願寺ニ云ラ今根本中堂ニ
堂打臺敷廻堂鐘樓昇雲堂仁王門北
塔ハ今は無し

根本中堂歟山ノ根本中堂ニ類似ノモノニ
テ單層ノ母屋ナリ甚タ見ルベキモノ
アラバ



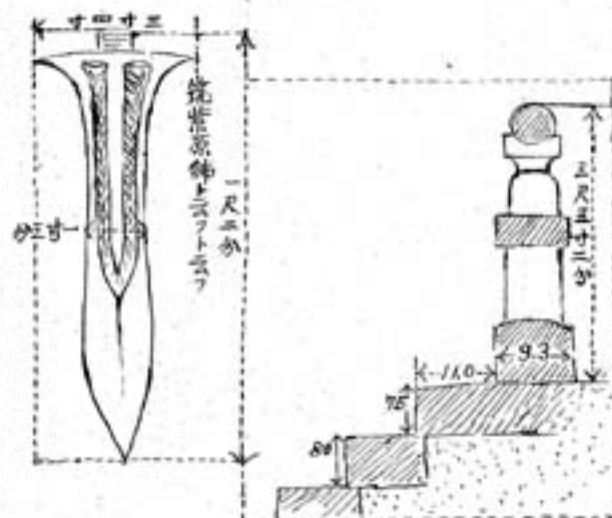


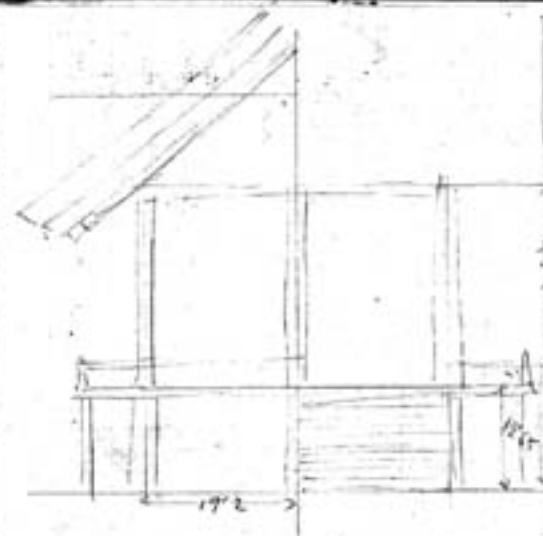
一間書水十八支 傍軒十四支
ウレ柱ノ所長抑其輪共ニキレ

出雲大社

北条時氏より屋根をフキ改む
 尾子氏両部として建築形式を以て
 慶長十三年あり掘立て改メて土蔵をいける
 碓風の方ありあども尾子の仕りありべし
 六十年毎に改造とは標川氏以降のことある
 か如し古へはトモ六十年い保ち難し
 大風の害と大社の欹倒せしやあど傳記し
 て凡そあに大社かき之を極めて弱き構造
 ありしを以てあり。

義教ノ甲冑一領アリ
 自前古十種ニハ義教ノ鎧トアリ
 当社大永ヨリ寛文マテ兩部ナリナリ
 寛文ヨリ以原唯神道ナリあれ
 もと掘立てナリナリナリナリナリ





- (2) 寛永由長十四年に遷移
大伴殿似と云ふ門の遺蹟あり、之
を懐北ヤリ、金伴丹塗
- (3) 寛文八申年三月五日、事務倉
伴ノ平面図(百々二)及田舎三十ヶ
二ノ中モヤレヨレナリ、現今ノ形
式ト全ク符合セリ



の五替全同重し付らん其図
ラノ図已に池田没落ミテ朱印ノ中
ニ接つ、廻廊、倉庫、堀門ノ奴キモノアリ、
蓋し後居時代モノ也

○鰐淵寺梵鐘



鰐淵寺は古文書甚多其内は
并築大社祀祀神遷宮次第と云ふものあり
宗仙退治の際に当寺は大社の別当寺
にてありしものあり右の記録を面白き
あり

大社に柱立用音心

此輪屋の全う遠上り候ニテ表と又其
上段の八葉に切リソリ飯ノ押付リ候
下段の八葉に切リソリ飯ノ押付リ候
所ノ如紙ノ裏に柱ノ下の也此代ハ銅
ノ作リ也銅也表の表ノ作リ也置也
銅ノ作リ也竹束切事也柱ノ横ノキリ口
針ノ作付エん也午家月ニ立マレハ
千原皮切物ノ渡リ申也此島月ニ立
ハ此島ハ海神柱御内殿大段表候今
新禮何と勤行事ノ柱立ノ付法申也
此輪屋ニ土産ノ事ト云々
伊勢大神宮ニ此ノ可敷ハ
大社ニ此ノ可敷ハ

大社ニ此ノ可敷ハ



佛=Buddha
法=Dharma
僧=Sangha
三寶
W = 三叉

梓葉大社御宇殿様概略

○西南ノ柱地蔵菩薩

○カサノコノある鏡を二枚柱の神の前には御神樂殿
引中柱総勒菩薩

○九重の丸の色ある花の木と云ふに立る実様哉
東の端柱毘沙門

○毘沙門木と云ふ石を立つて金甲の月星を見る
西中柱除陀

○西方の除陀ノ柱と云ふ大神ノ前ニ佛を立す
凡中の柱太日

○大日の輪の内ニ柱下ニモカニ穴ニモイナク
東の中柱蓮華

○東方ノ柱に寄る武家ノ氣業を云ふ

系西の奥柱虚空花

○虚空ノ皆木ノを滑上テ今を作ヒリサノ宮ニ
花北の中柱釈迦

○岩根より出る清水と云ふに尼僧ありと云ふ瀬川
不事ノ奥柱觀音

○多々の岸打浪ノ寄柱今ニカレンガノ宮

一井葉大社三十三丈中ハ仁王十六代置り天皇
御時造立也其後十六丈と云ふ次ハ八丈ニナリ
今は四丈五尺也

長元四年 辛八月十日 御額例

金九年年日廿八日 御遷宮

唐平四年 辛十一月廿九日 御遷宮

金五年四月廿二日 御遷宮(後殿)

永曆三年 丁二月一日 正殿遷宮

天仁二年 己三月五日 御額例

全 十一日十五日 御遷宮

永久二年 甲七月六日 正遷宮

保通七年 卯六月七日
 兼安二年 卯十月十日 臨殿島
 嘉祿元年 卯十二月二日 沖殿刺
 宝治二年 十月二十九日 遠宮倒
 康仁元年 丁亥十月 上棟還宮
 文明八年

○亨祿三年三月八日 上柱

○天文十九年廿四日 上棟一廿六日 還宮

○元龜四年 卯七月廿八日 袖入

天正三年 乙亥九月廿三日 新御

天正四年 丙子十月廿八日 丁亥立柱

八年十一月廿二日 上棟廿六日 城乾還宮

○慶長十二年 丁未三月十六日 木作始

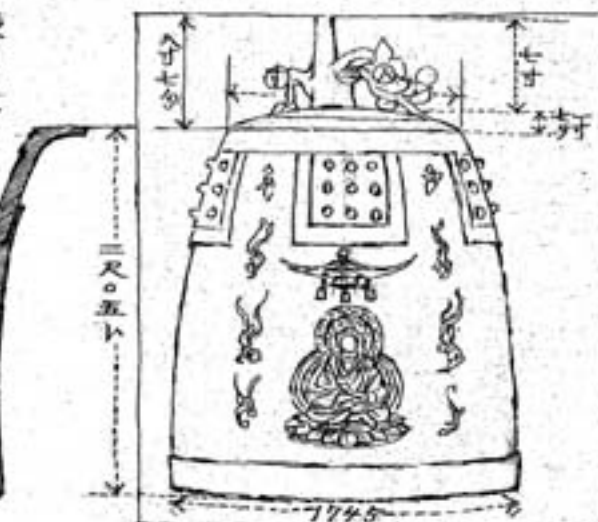
全十四年 己酉二月廿五日 上柱

金 三月廿日 壬丑 上棟

全 廿八日 還宮

云々
 コノ後寛文延亨に改築アリトス

撞坐相對
仏像と對して銘アリ



厚一寸五分
口徑一尺七寸四分五厘
最大徑撞坐の上部

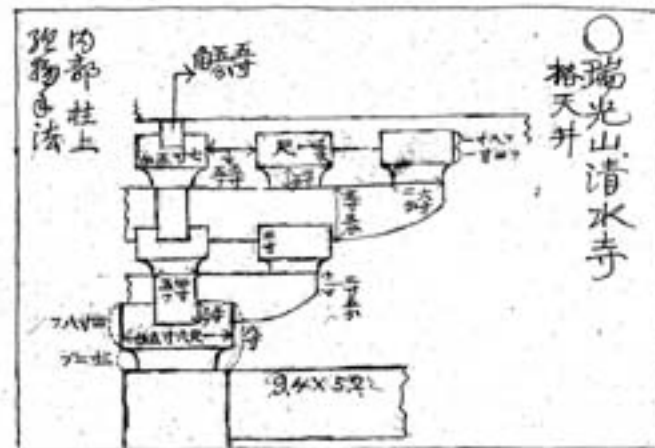
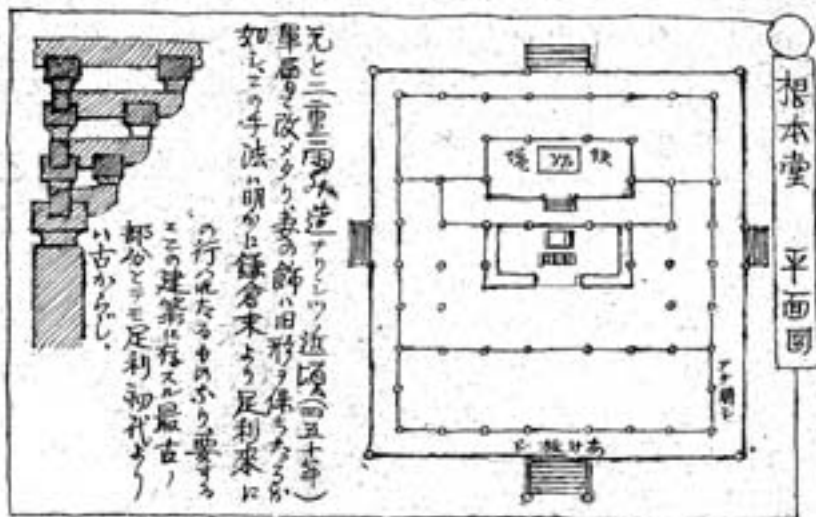


○島根縣
八束郡法吉村大字国屋
梵鐘
梵鐘
天倫寺(臨濟)

乳形八葉



九の下
蓮葉より
その内田
三唐草模様
あり



●梵鐘

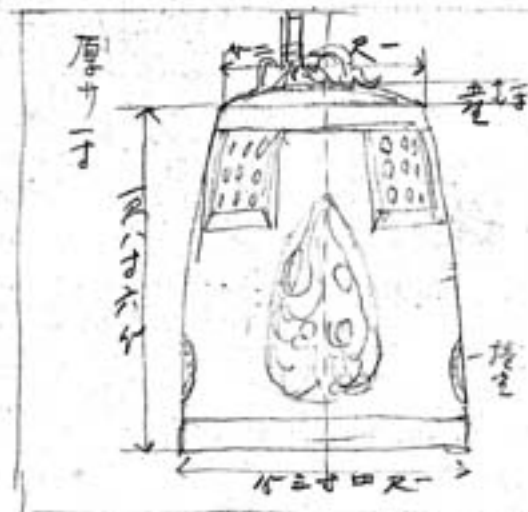
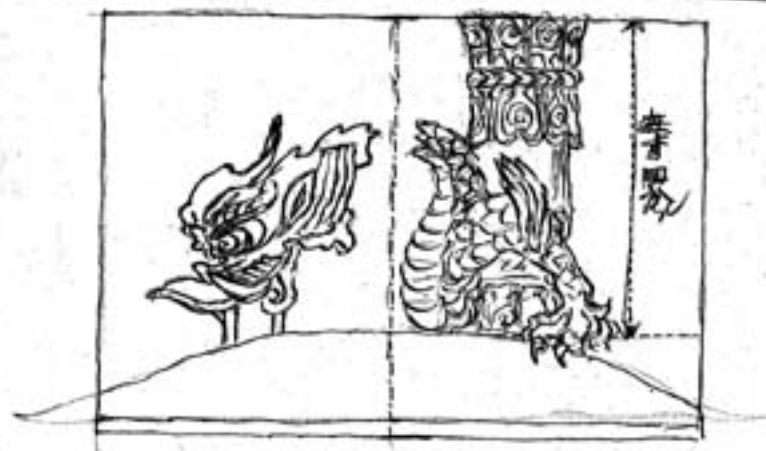


應永廿八天_辛重陽初八日

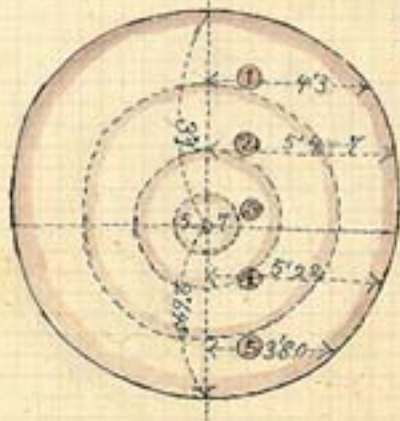
當寺元ト三拾町四方アリ本堂ノ本
尊十一面觀音丈餘五尺三寸毘首錫摩
彫四天王ハ弘法ノ作ト稱ス本尊ハ必
ス見ルハヤミノナラズ今他見テ驚セリ

元秋
元春
輝元
元就

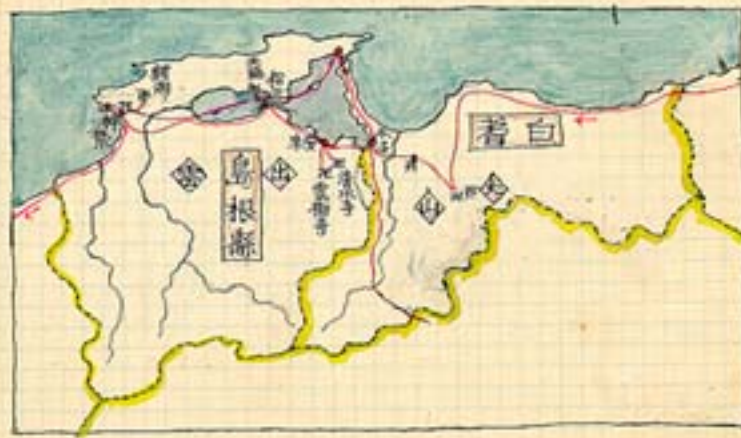
兩
兩
通



◎雲梯寺
山門 後醍醐天皇ノ御額アリ
仙臺 寺裏十八尊像アリ



唐招提寺千手観音の光背
卵形



○天野山金剛寺

大師堂 附觀月臺（慶長ノモノ）

重寶（

多宝塔、

食堂、



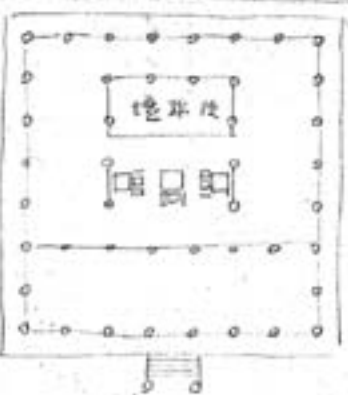
○觀月臺

此台上天竺ノ觀音ノ像アリ

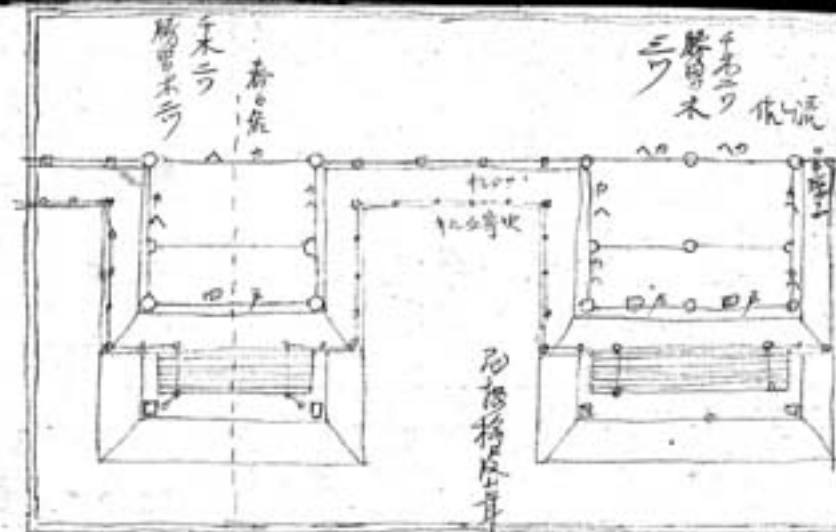


此中戸あり、十六ノ間あり、
奥の部屋ノモノト大い
似たり、慶長ノモノナリ

○金堂



中尋大日 左殿不動尊像あり、
右ノ尊像あり、

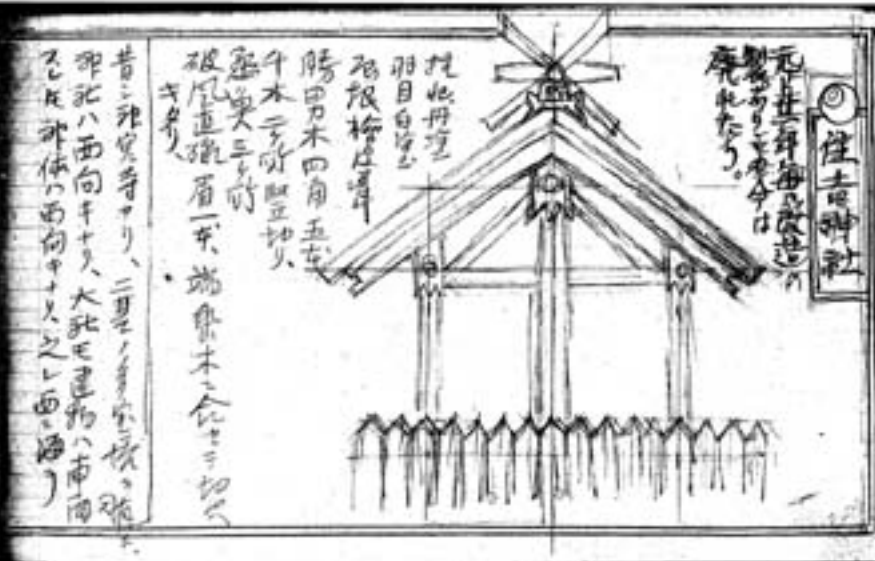
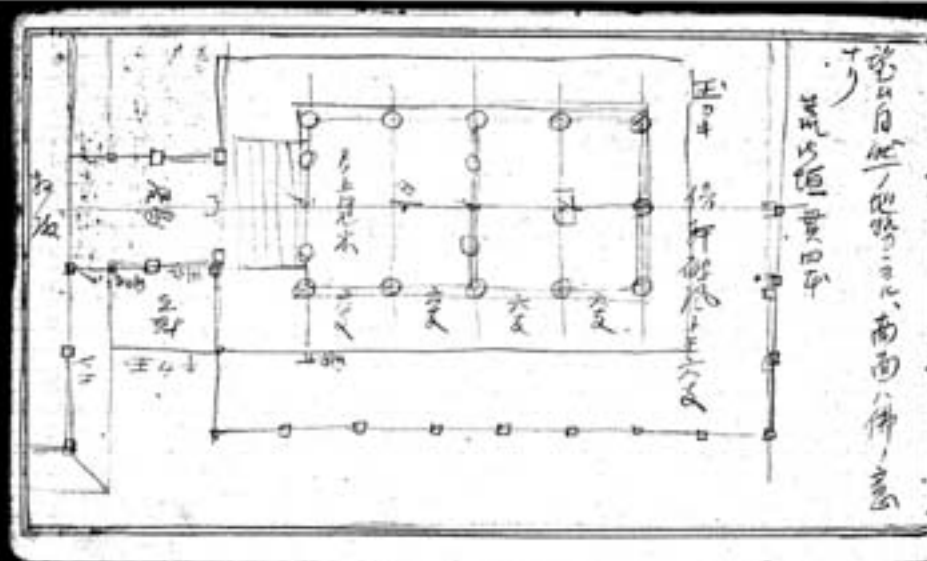


建武 年建築
 此は武蔵野の彫刻欄干の
 其の左の欄干は白く
 右の欄干は黒く
 木製で
 石燈籠



南河内郡赤松村大字水谷

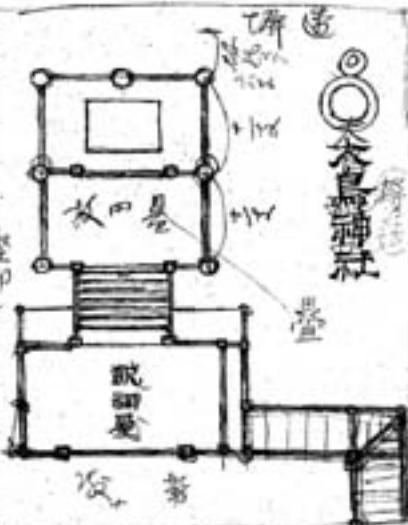




元々東南ニシテ破新ノ屋



住宅作りノ木ニテ腰回イ木ニ本丸
形、尾根持込、丹塗、
堅更ハ住支此ノモノヲ、並道ノモノニ
変化スル中道ノ形状、
此ニ此果生シ、紅黒、袖切り、繪縁
ヲ生セリ、
(寄木割甚多小、
破風柱直張三ツノ眉ヲ生セリ、
要スル在昔色リノ変化シテ、並道
形状ナリトスル中道ナリ、



◎ 国府守御所

△三万二千人

モト尚書子よりレモト云フ

野方井ノ形なんへシ

○ 三重堀

見んこ足

○ 金吾

度長ノモト唱レ見んこ足

○ 明仙寺

仁無寺ヨリ申寄リ物リテ依ルト云フ、
東照殿ノ重寄依リテ見んこ足モノコリト
見んこ足受金ナル一連ホリナリハリコ
價任ナレ

○ 輔亮

鎌倉的・建築者ヤ、見んへレ、五百四
重層、

三上町
棟札
○三上町

1. 上棟 正安二年 源
2. 寛永三年 春造立
3. 寛文五年 春修理
4. 貞享三年 秋修理
5. 宝永二年 造立(大井久松)
6. 宝永四年 修理
7. 享保二年 秋修理
8. 享保四年 秋修理
9. 安永五年 秋修理
10. 文化元年 秋修理
11. 文化十二年 秋修理
12. 文政十二年 秋修理
13. 慶應元年 秋修理

○当社の文庫(三)調書
△本殿之部
1. 正安二年 建立
2. 寛永三年 修理
3. 寛文五年 修理
4. 宝永四年 修理

7. 6. 天保十二年
8. 天保十三年
9. 天保十三年
10. 天保十三年
11. 天保十三年
12. 天保十三年

△本殿
1. 延文三年
2. 文安二年
3. 文安二年
4. 文安二年
5. 文安二年
6. 文安二年
7. 文安二年
8. 文安二年
9. 文安二年
10. 文安二年
11. 文安二年
12. 文安二年

11. 10. 9. 8. 7. 6. 5. 4. 3. 2. 1.
文化元年
文化二年
文化三年
文化四年
文化五年
文化六年
文化七年
文化八年
文化九年
文化十年
文化十一年
文化十二年

△本門
1. 文安二年
2. 文安二年
3. 文安二年
4. 文安二年
5. 文安二年
6. 文安二年
7. 文安二年
8. 文安二年
9. 文安二年
10. 文安二年
11. 文安二年
12. 文安二年

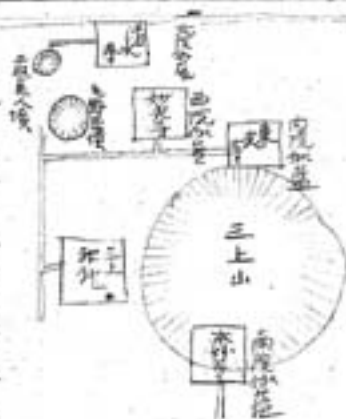
8. 7. 6. 5. 4. 3. 2. 1.
安永五年
安永四年
安永三年
安永二年
安永元年
安永元年
安永元年
安永元年
安永元年
安永元年
安永元年
安永元年

7 文化十二年
10 慶元三年
11 明使十年
12 全十二年

“ “ “

北へ

吉野町氏ノ古岡(四百年以上ノ古)



昔シ三上山ノ麓ニ岡ノ如キ御堂アリ
寛正元年康山ノ徒仙居ノ境ニ本堂ニ
康正年中残りシ大永四年災火
ニカウ御堂全滅ス三上山ノ即中

◎深川附近 寺庄村

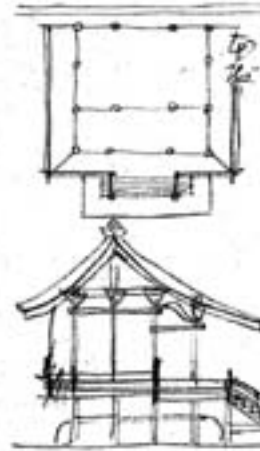
寺庄村

矢川神社

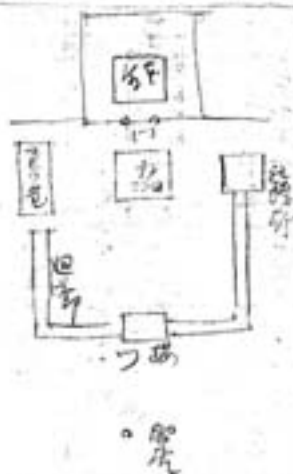
○橋門下屋丈ク存々四百年
以上ノモノアリ、本堂、コレノ御堂、
紅葉、スレニミヤコノ者ナルハ、必ズ是ノ
所ナリ
陽秋勝リハ

◎田原郡大石野島庄野

大島神社



油川神社の依り屋と云ふ



◎ 甲賀郡油日村
式内、川村神社

本社 明治二年再建、
神門 明治二年再建、

瑞恒 同上

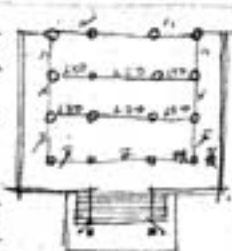
拝殿 明治二年再建、

廻廊 同上

金庫 同上

以上、

中飯



金庫ノ形ナ、建水ノ建地ニ似タル所ナリ、
廻廊子ノ形ナリ、
門ノ建地ニ似タル所ナリ、
御所ノ建地ニ似タル所ナリ、
御所ノ建地ニ似タル所ナリ、
御所ノ建地ニ似タル所ナリ、

上棟正石油日大正七年六月六日、
大正七年六月六日、
大正七年六月六日、

由緒不明、
大正七年六月六日、
大正七年六月六日、

子此ノ附近ニ自發大蛇神アリ、
大正七年六月六日、
大正七年六月六日、
大正七年六月六日、

○証提物件

真時伊豆義泰三年異

一今の窟組の明治十五年の昔、き替テラジの時、是處の小屋とて入れず

一ツノ以前、即ちお政ノ頃、昔き替へタル所、小屋の曲りたる、直し丸太にて、所々に石、其の筋カヒヲ加へたり、今現存せり

一丈しヨリ以前の、コトハ、分らず

一寺の小屋組と、関する、借記口牌、切ナシ



一但し小屋組中の古材とて、使用に堪ユルモノハ、利用すべし

○甚目寺塔三重塔の煙

(別に見るべきものあり)



木堂に梵鐘一口あり

建武二年の銘あり

龍頭の形は鎌倉四尊寺のものに似たり、全体の形亦太く住より

(上)



(左)



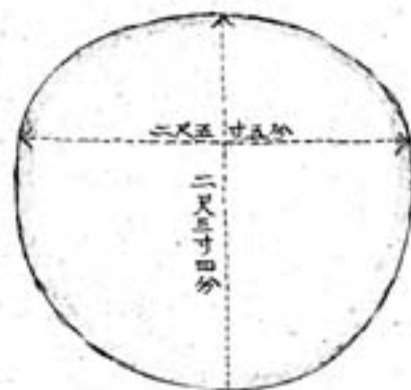
(右)



(下)

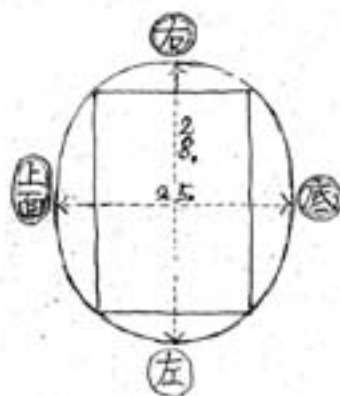


① 一丈の附ミテ全
(二尺八寸五分)
(二尺七寸)



② 二尺五寸五分
二尺三寸四分

③ 二尺八寸一 二尺五寸



底、大節三ツ何レモ五寸位
上面 二ツ大節(但レ彫込見込)
右面 無節

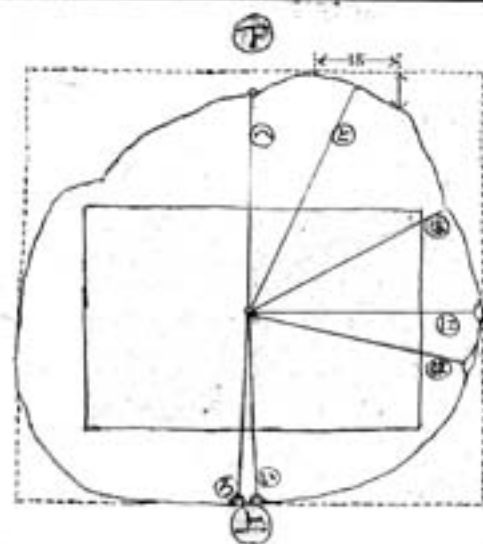
| | |
|--------------------|--------|
| 本木材代仙々キ・タ・二・八・〇・八 | 一八・〇・八 |
| 本材運送経費(一車百六十貫) | 一八・〇・八 |
| 一山あり谷へ下スマデ(又、切りテ) | 一八・〇・八 |
| 二十五人滑一週(百七十五人) | 六四・七・五 |
| 一谷ヨリ車(積ムマデ)(作り場) | 一八・〇・八 |
| 二十五人一日(但し二日以内) | 一八・〇・八 |
| 一車ニテ名古屋マデ(又、日五十貫位) | 一八・〇・八 |
| 荷造り馬車付添人、諸伯料 | 一六・〇・〇 |
| 道路準備 | 一六・〇・〇 |
| 一車作り場ヨリ馬車マデ精ムマデ | 一六・〇・〇 |
| 二十人 | 一六・〇・〇 |
| 合計 | 三三・〇・九 |

| | |
|---------|-----|
| 伐木 | 七日間 |
| 谷下下す | 一日 |
| 作り場へ送る門 | 一日 |
| 木作り | 三日 |
| 車積ムマデ | 一日 |
| 名古屋マデ | 十日 |
| 二十二日 | 十日 |

普通通川下マデレバ
 錦織スチヤカ付凡そ十五円位(本編スチヤカ付凡そ十五円位)
 錦織ヨリ白鳥マデ一十円位(三十日)
 合計二車マデ五拾四七拾五日

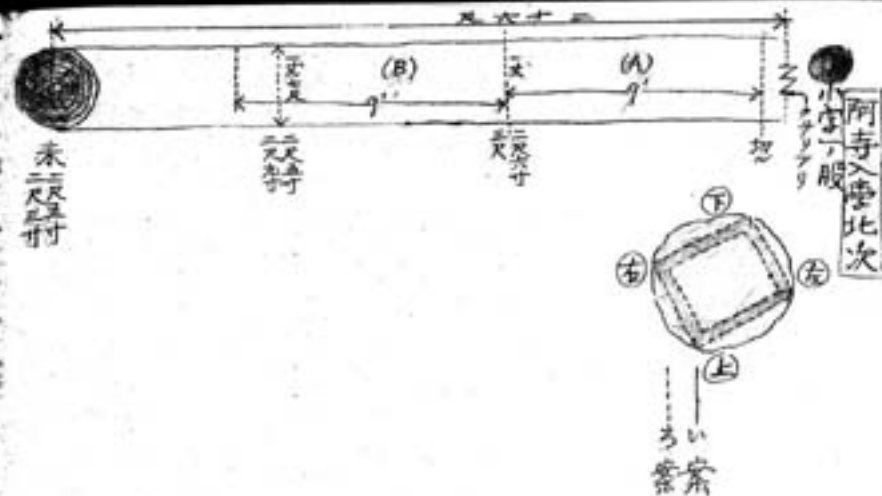
伐木・園スル根概

目下二百五十人ノ役授す
 日雇総額 食費、外四拾五元
 日雇代人(組ノ大體) 命十五名計四拾五元
 私惣頭 四十元
 私代人 四十元
 組頭(組ニ名付) 二拾元
 日雇 二大衆以下七下七名を三十
 又を以て一組
 米、五月より十月まで一人二拾九元
 十一月四月マデ
 未嘗 三十日
 一ヶ年二万五千尺メ



甲号へんりちをケル形面

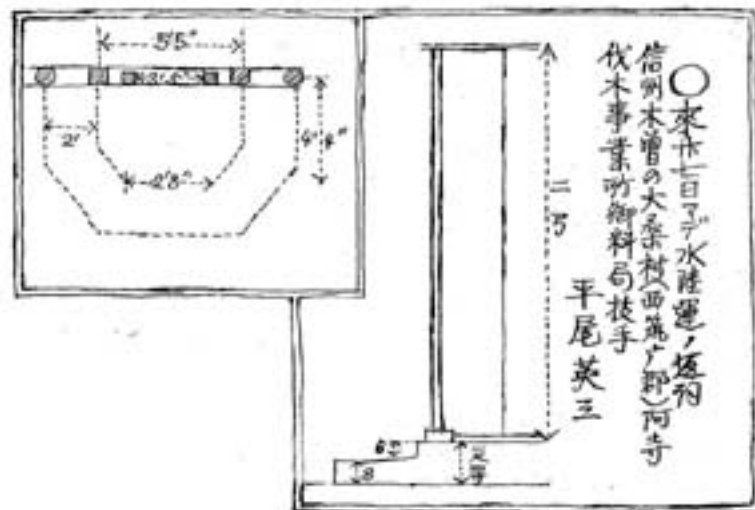
- (A) 部無節
- (B) 部 (1) 前へ引一す五の節
後へ引三すの節
上面 子より四すマセ七の節通る迄
- (3) 又 (1) 前無節
後へ四す三の節
上面 子より四すマセ五の節通る迄



阿寺入堂北次

小字ノ服

ろい案





郡古寺の宝塔内

● 尾の上の鐘

神后三韓ヨリ持ち歸ルト傳フス天倫
寺ト類似ノ点ヨリ韓鐘と認ム
天蓋仏像や花及樂器や天倫寺に
似ル。

● 天倫寺

下帯は不動院の如くに似てから草の
門に宝珠あり。
上帯は鶴淵寺ノモノニ似タリ

上



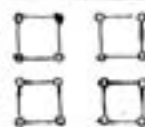
下



h = 3'2

径 = 2'5

◎延命寺



十文字の通路を開ク

三門のプラン奇あり、

日本寺鐘

銘 永徳二年十一月廿五日

此鞍の細長ク何處ニモ模範ナレ
龍頭ハ



凡ハ十六甚だ小あり

薬師堂と貞和元年より建築

三門四面向おツキ

観音堂 全上



古文書教通軸二三等アトモ優等
品ナレ、

| 検 | 皮長 | 足 | 場防 | 面積 | 坪價 | 場防 | 特 |
|----------|----|-----------|-------------|------|------|----|---|
| 12x12x3" | 蛇腹 | 34" | (-5)円 | 気多神社 | 3年5月 | | |
| 一尺二寸 | 軒付 | 34" x 11" | (-) 8.47 | | | | |
| 二尺五寸 | 半 | 55坪 | 坪 8.60 | | | | |
| 一尺二寸 | 品 | 115坪 | (-5) 坪 8.62 | | | | |
| 一尺二寸 | 平 | 12坪 | 坪 8.30 | | | | |

| 木材代價 | 長 | | 材積 | 場所 | 昭和32.10月 |
|------|-----|----------|----------|-----|----------|
| | 寸 | 寸 | | | |
| 柚 | 9' | 5'x3' | 11. | 金比羅 | |
| 松 | 12' | 5'x6' | 6.4 | 〃 | |
| 杉 | 9' | 未 | 34. (一本) | 〃 | |
| 桧 | 12' | 3' | 18. (〃) | 〃 | |
| 杉 | 9' | 3' | 15. (〃) | 〃 | |
| 杉 | 12' | 3'x6' | 7. | 〃 | |
| 松 | 12' | 11'x2'4" | 28.9 | | |

コケラ葺 一平葺 原入生瓦五合七分足 坪四円位 坪二入葺位(瓦葺七)
破風葺 一破風 〃
隅葺 一隅葺 〃
軒付 一〃 唇四合長四寸ヲ用 坪三円位



推古時代

一 時代/経過

敏明天皇十二年より大化の革新ナレトモ
皇祖史を再建再建は願う事と
ある。

二 當代藝術の特性

西域との関係—三輪傳來、仏像彫刻—
模倣—曲線の性質。

三 歴史上の事蹟

甲、寺院の原基、大野五塔、
聖徳太子と大寺等
乙、神社
丙、墳墓

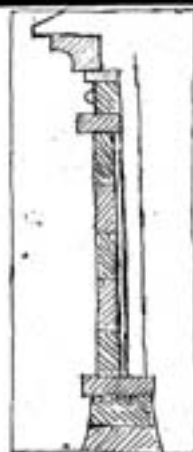
遺物

法隆寺伽藍
附玉虫厨子
法興寺塔
法興寺塔

第一日一人三千坪ナリ、金堀坪ハ二割減ナリ
二十日分鈴木氏

豊田神社

棟骨仕様 内 2 屋根板長サ一尺厚一分 節 3 軒口ヨリ五尺七分 鼻出五
平均一寸足ニテ一寸有釘五枚歩ニ二通打ニ云々
表板 (長七寸ツ七分) 一 百 付 50 枚
小軒 (長二寸アツ四分) 〇 〇 枚
平寄板 (長一尺アツ四分) 〇 〇 枚
総五寸四寸半 合 〇 枚
棟瓦葺 〇 式 〇 金 271 坪 1 段 〇 一 坪 平均五内二十五枚
又 丈 〇 棟瓦ヲ除ケハ 凡 五 間
平板寄五寸半 六 合 五 枚 〇 一 坪 平均五内二十五枚



井川出動

| 年月日 | | 昭和二年 市道官署 見込 |
|-----|-----|--------------|
| | | 手書 |
| 32 | 10 | 車種調査 |
| 32 | 11 | 内蔵代木其他木種実地検査 |
| 32 | 12 | 内蔵山内蔵 |
| 33 | 1 | 内蔵山内蔵 |
| 35 | 1 | 伐木調査 |
| 35 | 5 | 山口県木本業 |
| 35 | 6 | 内蔵山木本業 |
| 35 | 8-9 | 内蔵代木伐採一伐木着手 |
| 35 | 10 | 小谷卸 |
| 35 | 11 | 才一汝川下材材着川へ排込 |
| 35 | 12 | 才一汝川材中山 |
| 36 | 1 | 才一汝川材網堀着 |
| | 2 | 掘伐木又木へ着 |
| | 3 | 大溪へ着一奉定 |
| | 4 | 又木へ着 |
| | 5 | 大溪へ着 |
| | 6 | 南へ人民中木定 |
| | 8-9 | 才一汝川材着手 |
| | 10 | 小谷卸 |
| 37 | 1 | 木着川へ排込 |
| | 2 | 木着川へ排込 |
| | 3 | 又木へ着 |

| 年 | 月 | 日 | 祭 |
|----|----|----|-----|
| 33 | 2 | 25 | 祭 |
| 33 | 4 | 28 | 地柱祭 |
| 33 | 5 | 10 | 上棟祭 |
| 33 | 7 | 17 | 内帛祭 |
| 33 | 9 | 28 | 杵杵祭 |
| 33 | 10 | 1 | 後鎮祭 |
| 33 | 10 | 2 | 遷御祭 |
| 33 | 10 | 3 | 奉幣祭 |
| 33 | 10 | 4 | 遷御祭 |

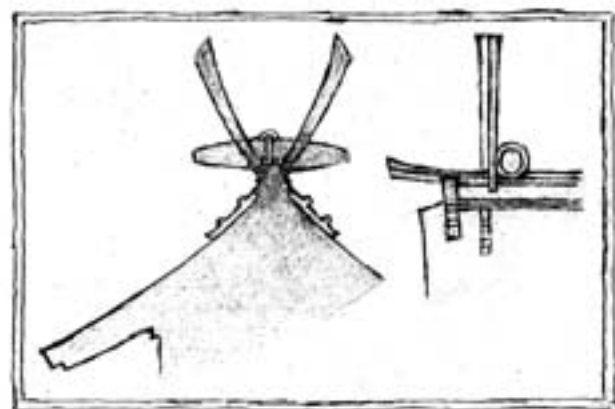


伯耆国
橋津

| | |
|----|----------------|
| 金田 | 唐招提十藏成拾分將建做捕視察 |
| 原野 | 清水紅王親索署建〇〇視察 |
| 法蘭 | 修繕計畫三付打合々 |
| 福井 | 朝奈見の候補觀察その他 |

| | | | | | | | |
|----|----|-----|---|---|---|---|---|
| 2 | 9 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 3 | 0 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 3 | 1 | (B) | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 1 | 2 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 2 | 3 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 3 | 4 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 4 | 5 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 5 | 6 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 6 | 7 | (B) | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 7 | 8 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 8 | 9 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 9 | 10 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 10 | 11 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 11 | 12 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 12 | 13 | 一 | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |
| 13 | 14 | (B) | 華 | 在 | 亦 | 都 | 石 |

| | | | |
|------|------------------------------------|--------------|--------------|
| 二十六日 | 三雲發
十時五十分 | 深川着
十一時七分 | 山田着
八時十一分 |
| 二十七日 | 山田着
八時十一分 | | |
| 二十八日 | 四時四十八山田發
十時五分名古屋着 | | |
| 二十九日 | 名古屋着在 | | |
| 三十日 | <small>(夜中)</small>
名古屋發十二時四十六分 | | |
| | 大船着
十時九分 | | |
| | 大船發
六時三十二分 | | |
| | 新橋着
八時十一分 | | |



鳥取より西白即米屋より登山西伯群
大高村大字屋高へ下りまより米子に
到る。
鳥取より柳米屋まで二十(里)七月橋津
一泊、又より山路三里、下山三里、麓より
米子まで四里、米子より松江まで流船アリ。

東所 脇本 杉氏
斎米屋 後養 善六

明八日昼食



出雲國土記
舊古知今四載出雲縣史ヲ知ル足ル
謝金三

南河内

高貴寺

奥寺

富田林口一里北七八河

建水公外記

鯉池寺

八尾

茶室

vis viva

松津片町二千三百地

菱井

上二馬分四十馬地

木子

内務大臣長倉

牧野

本郷表河町御州館

山口栄

錦所一丁目十九番小田才

桐山

奥野

34



愛知、廣島、鳥取、島根、大阪、滋賀